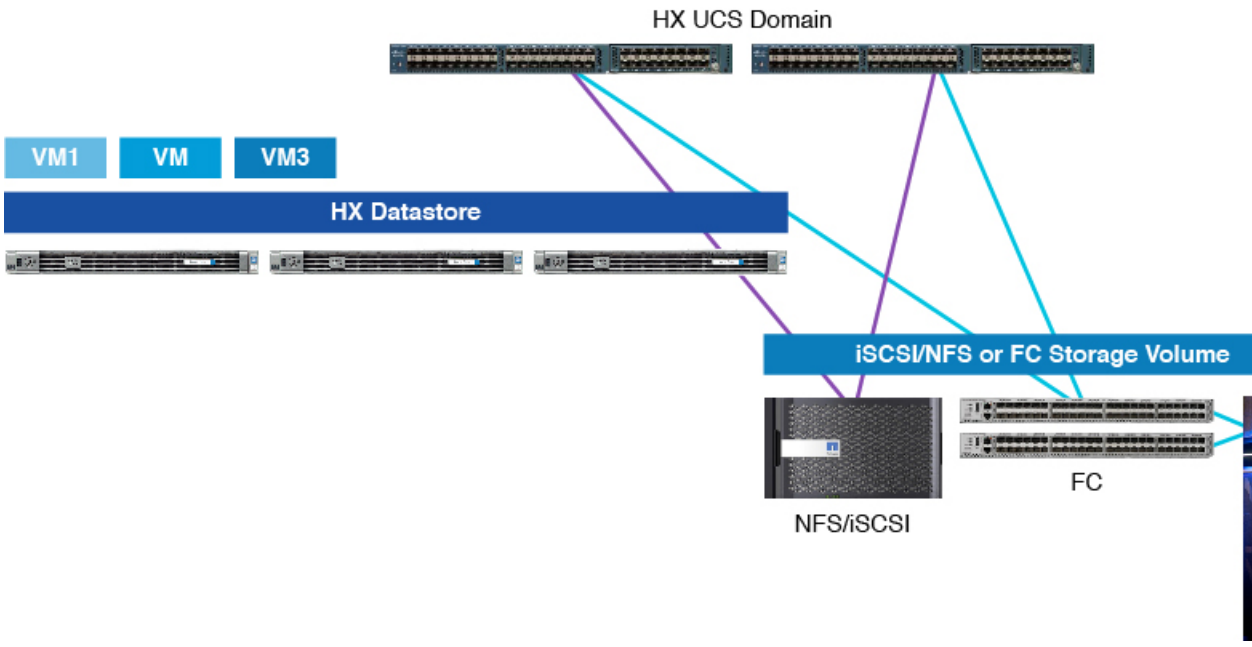
外部ストレージ管理

- 外部ストレージ管理の概要 （2 ページ）
- 外部ファイバ チャネル ストレージ （2 ページ）
- 外部 iSCSI ストレージへの Cisco HX サーバの接続 （12 ページ）
- 外部 NFS ストレージへの Cisco HX サーバの接続 （21 ページ）
- ファイバ チャネルのゾーン分割 （24 ページ）
- Cisco UCS Manager でのファイバ チャネルのゾーン分割 （24 ページ）
- ファイバ チャネル ゾーン分割の設定 （25 ページ）
- ダイレクト アタッチド ストレージ （26 ページ）
- ファイバ チャネル スイッチング モード （26 ページ）
- ファイバ チャネル スイッチング モードの設定 （27 ページ）

外部ストレージ管理の概要

図 *1 :* 外部ストレージと *Cisco HyperFlex* システムの統合



Cisco HyperFlex システム は、ユニファイド ファブリックを介して SAN ストレージとネットワーク アタッチド ストレージ（NAS）の両方への統合されたアクセスを提供します。ストレージ アクセスを統一することにより、Cisco Unified Computing System は、イーサネット、ファイバ チャネル、Fibre Channel over Ethernet（FCoE）、および iSCSI を介してストレージにアクセスできます。

外部ファイバ チャネル ストレージ

外部ファイバ チャネル ストレージへの HyperFlex ノードの接続

このドキュメントでは、Tier 1 外部ファイバ チャネル（FC）ストレージ アレイを HyperFlex ノードに接続する方法を詳しく説明します。外部 FC ストレージは、次のように、ファイバ チャネル エンドホスト モードとイーサネット エンドホスト モードで HX ノードに接続できます。

- ファブリック接続 FC ストレージ
- ファブリック接続 FCoE ストレージ

ストレージ設計に関する考慮事項

SAN 接続に関する設計上の考慮事項を次に示します。

- ノースバウンドストレージの物理接続では、LAN接続などの仮想ポートチャネル（vPC）がサポートされません。
- ポート チャネルまたはトランキングを利用して、複数のストレージ アップリンク ポートを結合して物理リンクの冗長性を確保することができます。
- ストレージはストレージリソースの冗長性を管理します。これはベンダーによって異なります。
- 外部ストレージを HX ドメインに直接接続すると、追加の処理によりファブリック インターコネクトの物理ポートの使用量が増加します。
- ストレージリソースへのアクセスを提供するには、VSANやゾーン分割などのソフトウェア設定が必要です。
- 外部ストレージ接続を利用する場合は、2 つのクラスタ間で LAN 接続ポリシーが異なる可能性があるため、ストレージに接続する各クラスタを独自のドメイン内に置くことが不可欠です。
- HyperFlex を NetApp IP ストレージを備えた既存の UCS ドメインに統合する場合、デフォルトの QoS ゴールド クラスを 9216 バイトに変更します。これにより COS 4 でジャンボフレームが使用可能になります。詳細については「NetApp KB Article number 000003500」を参照してください。

ストレージ設定の順序

以下に記載されているステップに従って、HX サーバを外部ファイバチャネル（FC）ストレージに接続します。

ステップ 1 管理者レベルのクレデンシャルを使用して、HX データ プラットフォーム インストーラにログインします。最初のワークフローの選択で、[I know what I'm doing, let me customize my workflow] オプションをクリックします。

ステップ 2 [Run UCSM Configuration] および [Run ESX Configuration] のみを選択します。

ステップ 3 ウィザードに従って、設定を完了します。上記の章で説明している手順で作成する HX ポリシー、サービス プロファイル テンプレート、およびサービス プロファイルを、HX クラスタに関連付けることになります。

特定の手順については『HyperFlex Getting Started Guide』の「Configuring HX Data Platform」の章を参照してください。 http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/hyperconverged_systems/HyperFlex_HX_DataPlatformSoftware/GettingStartedGuide/b_HyperFlexSystems_GettingStartedGuide/b_HX_BookMap_chapter_011.html#id_13262

クラスタがオンラインになった後では、vHBA はなくなります。

ステップ 4 FC または iSCSI ストレージを追加するかどうかを判断します。

FC ストレージの接続

a) Cisco UCS Manager GUI にログインして、ファイバチャネル通信用の VSAN を作成します。詳しくは、ファイバ チャネルの VSAN の作成 （5 ページ）を参照してください。

b) HyperFlex の WWNN プールと WWNN ブロックを作成します。詳細な手順については、WWNN プールの作成を参照してください。

c) ファブリック固有の（hx-a および hx-b）WWNN プールと WWPN ブロックを作成します。詳しくは、WWPN プールの作成 （7 ページ）を参照してください。

d) ファブリック A とファブリック B にそれぞれ関連付けられている上記の WWPN プールを使用して、vHBA テンプレートのペアを作成します。詳細な手順については、vHBA テンプレートの作成 （7 ページ）およびファブリック インターコネクト B の vHBA テンプレートの作成 （17 ページ）を参照してください。

e) HyperFlex SAN 接続ポリシーを作成します。詳しくは、SAN 接続ポリシーの作成 （10 ページ）を参照してください。

f) クラスタに使用する HX サービス プロファイル テンプレート（SPT）に HX SAN 接続ポリシーを割り当てます。これにより、変更された SPT から作成されたクラスタ内のすべてのノードで pending-ack が発生します。vHBA を使用してサービス プロファイルの再設定をトリガーするために、クラスタ内のすべてのサービス プロファイルのすべての pending-ack を確認します。

iSCSI ストレージの接続

a) Cisco UCS Manager GUI にログインし、VLAN を作成します。詳しくは、HX FI ドメインに iSCSI ストレージを追加するための VLAN の作成 （9 ページ）を参照してください。

b) iSCSI ストレージの MAC プール アドレスを作成します。外部ストレージの MAC アドレス プールの作成 （15 ページ）を参照してください。

c) ファブリック A とファブリック B にそれぞれ関連付けられている vNIC テンプレートのペアを作成します。詳しくは、iSCSI ストレージの vNIC テンプレートの作成 （16 ページ）を参照してください。

d) HyperFlex LAN 接続ポリシーを作成します。詳しくは、LAN 接続ポリシーの作成 （19 ページ）を参照してください。

e) クラスタに使用する HX サービス プロファイル テンプレート（SPT）に HX LAN 接続ポリシーを割り当てます。これにより、変更された SPT から作成されたクラスタ内のすべてのノードで pending-ack が発生します。vNIC を使用してサービス プロファイルの再設定をトリガーするために、クラスタ内のすべてのサービス プロファイルのすべての pending-ack を確認します。詳細な手順については、LAN 接続ポリシーの作成 （19 ページ）を参照してください。

f) ネットワークおよびストレージ アダプタを追加します。詳しくは、ネットワーク アダプタの追加 （20 ページ）を参照してください。

ステップ 5 これで、外部ストレージの追加が完了します。

（注） 任意で、上記の 2 種類のストレージのいずれかを HX FI ドメインに追加するか、または FC ストレージと iSCSI ストレージの両方を HX FI ドメインに追加できます。

ステップ 6 再度 HX インストーラにログインします。[Start Over] をクリックします。

ステップ 7 最初のワークフローの選択で、[I know what I’m doing, let me customize my workflow] オプションをクリックします。

ステップ 8 [Deploy HX Software] を選択します。ウィザードに従って、HX クラスタを作成します。

ファイバ チャネルの VSAN の作成

SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID は違っている必要があります。同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。ID が FCoE VLAN ID と重複しているすべての VLAN 上でイーサネット トラフィックがドロップされます。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN Cloud] > [VSAN] ノードを選択します。

ステップ 3 [VSAN] ノードを右クリックし、[Create Storage VSAN] を選択します。

ステップ 4 [Create VSAN] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	ネットワークに割り当てられている名前。 この名前には、1 ～ 32 文字の英数字を使用できます。-（ハイフン）、_（アンダースコア）、:（コロン）、および .（ピリオド）は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後で、この名前を変更することはできません。
[FC Zoning*] フィールド	FC エンドポイント ホスト モードのファブリック インターコネクトの [Disable] オプション ボタンが選択されていることを確認します。 （注） ファブリック インターコネクトがアップストリーム スイッチに接続されていないことを確認します。
[Configuration]	環境に応じて設定を選択します。 • VSAN がすべての使用可能なファブリック内で同じ VSAN ID にマッピングされるようにする場合は、[Common/Global] オプション ボタンをクリックします。 • ファブリック A とファブリック B で異なる ID を持つ 2 つの VSAN を作成する場合は、[Both Fabrics Configured Differently] オプション ボタンをクリックします。

名前	説明
[VSAN ID] フィールド	ネットワークに割り当てられている固有識別情報。FC エンドホスト モードの場合、3840 ～ 4079 も予約済みの VSAN ID 範囲です。
[FCoE VLAN] フィールド	ファイバ チャネル接続に使用される VLAN に割り当てられた固有識別情報。 VLAN 4048 はユーザが設定可能です。ただし、Cisco UCS Manager では、VLAN 4048 が次のデフォルト値に使用されます。4048 を VLAN に割り当てる場合は、これらの値を再設定する必要があります。

WWNN プールの作成

ワールド ワイド ノード名（WWNN）プールは、ワールド ワイド ノード名だけを含む World Wide Name（WWN）プールです。サービス プロファイルに WWNN のプールを含める場合、関連付けられたサーバには、そのプールから WWNN が割り当てられます。

重要 WWN プールは、20:00:00:00:00:00:00:00 ～ 20:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF、または 50:00:00:00:00:00:00:00 ～ 5F:FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF の範囲内の WWNN または WWPN だけをインクルードできます。その他の WWN 範囲はすべて予約されています。SAN ファブリックで Cisco UCS WWNN と WWPN を確実に一意にするには、プールのすべてのブロックに 20:00:00:25:B5:XX:XX:XX の WWN プレフィックスを使用することをお勧めします。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] > [Pools] > [root] > [Sub-Organizations] > [hx-cluster] の順に展開します。

ステップ 3 プールを作成する [hx-cluster] サブ組織を展開します。

ステップ 4 [WWNN Pools] を右クリックし、[Create WWNN Pool] を選択します。

ステップ 5 [Create WWNN Pool] ウィザードの [Define Name and Description] ダイアログボックスで、[HyperFlex] と入力します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Create WWNN Pool] ウィザードの [Add WWN Blocks] ページで、[Add] をクリックします。

ステップ 8 [Create WWN Block] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[Form] フィールド：ブロック内の最初の WWN。

[Size] フィールド：ブロックに含める WWN の数。

WWN プールの場合、プール サイズは ports-per-node + 1 の倍数にする必要があります。たとえば、ノードごとに 7 個のポートがある場合、プール サイズは 8 の倍数である必要があります。ノードごとに 63 個のポートがある場合、プール サイズは、64 の倍数である必要があります。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

ステップ 10 [Finish] をクリックします。

次のタスク

WWPN プールを作成します。

WWPN プールの作成

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] > [Pools] > [root] > [Sub-Organizations] > [hx-cluster] の順に展開します。

ステップ 3 [WWPN Pools] を右クリックし、[Create WWPN Pool] を選択します。

ステップ 4 [Create WWPN Pool] ウィザードの [Define Name and Description] ダイアログボックスで、[hx-a] と入力します。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [Create WWNN Pool] ウィザードの [Add WWN Blocks] ページで、[Add] をクリックします。

ステップ 7 [Create WWN Block] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[Form] フィールド：ブロック内の最初の WWN。

[Size] フィールド：ブロックに含める WWN の数。

WWN プールの場合、プール サイズは ports-per-node + 1 の倍数にする必要があります。たとえば、ノードごとに 7 個のポートがある場合、プール サイズは 8 の倍数である必要があります。ノードごとに 63 個のポートがある場合、プール サイズは、64 の倍数である必要があります。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

ステップ 9 [Finish] をクリックします。

次のタスク

WWPN プール [hx-b] を作成します。上記の手順に従ってください。

vHBA テンプレートの作成

このテンプレートは、サーバ上の vHBA による SAN への接続方法を定義するポリシーです。これは、vHBA SAN 接続テンプレートとも呼ばれます。このポリシーを有効にするには、このポリシーをサービス プロファイルに含めます。

始める前に

vHBA テンプレート ポリシーを作成する前に、次のリソースの 1 つまたは複数がシステムに存在することを確認します。

- ネームド VSAN
- WWNN プール、または WWPN プール
- SAN ピン グループ
- 統計情報しきい値ポリシー

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] > [Policies] > [root] > [Sub-Organizations] > [hx-cluster] の順に展開します。

ステップ 3 [vHBA Templates] ノードを右クリックし、[Create vHBA Template] を選択します。

ステップ 4 [Create vHBA Template] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	[vhba-a] と入力します。 仮想ホスト バス アダプタ（vHBA）テンプレートの名前。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。スペース、またはハイフン（-）、アンダースコア（_）、ピリオド（.）およびコロン（:）以外の特殊文字は使用できません。この名前は、オブジェクトの保存後には変更できません。
[Description] フィールド	256 文字以下で入力します。 テンプレートのユーザ定義による説明。
[Fabric ID] フィールド	[A] を選択します。
[Select VSAN] ドロップダウン リスト	ファブリック A に選択した VSAN を選択して、この vHBA に関連付けます。
[Template Type] フィールド	[Updating Template] を選択します。 このテンプレートが変更されると、このテンプレートから作成された vHBA が更新されます。
[Max Data Field Size] フィールド	デフォルトは 2048 です。 vHBA がサポートするファイバチャネル フレームのペイロード バイトの最大サイズ。
[WWPN Pool] ドロップダウン リスト	[hx-a] を割り当てます。

名前	説明
[QoS Policy] ドロップダウン リスト	<設定しない>
[Pin Group] ドロップダウン リスト	<設定しない>
[Stats Threshold Policy] ドロップダウン リスト	<設定しない>

ステップ 5 [OK] をクリックします。

次のタスク

ファブリック インターコネクト B の vHBA テンプレートを作成します。

HX FI ドメインに iSCSI ストレージを追加するための VLAN の作成

ステップ 1 Web ブラウザを開き、Cisco UCS Manager の IP アドレスを入力します。ログイン クレデンシャルを入力します。

ステップ 2 **[LAN] タブ** > **[LAN]** > **[LAN Cloud]** > **[VLANS]** に移動します。

ステップ 3 次の表に示すように、右クリックして [Create VLANs] を選択します。

VLAN 名	説明	マルチキャスト ポリシー名	VLAN ID（デフォルト）
hx-extstorage-iscsi	外部ストレージの接続を追加するために使用されます	HyperFlex	4201

（注）

- 設定オプションは [Common/Global] です。これは、両方のファブリックに適用され、いずれの状況でも同じ設定パラメータが使用されます。

  共有タイプは、[None] に設定されます。

-

ステップ 4 [OK] をクリックします。

次のタスク

外部ストレージの MAC プールを作成します。

SAN 接続ポリシー

接続ポリシーは、ネットワーク内のサーバと SAN の間の接続およびネットワーク通信リソースを決定します。これらのポリシーは、プールを使用してサーバに MAC アドレス、WWN、および WWPN を割り当て、サーバがネットワークとの通信に使用する vNIC および vHBA を識別します。

（注） これらの接続ポリシーは、サービス プロファイルおよびサービス プロファイル テンプレートに含まれるため、静的IDを接続ポリシーで使用することはお勧めしません。接続ポリシーは、複数のサーバを設定するためにも使用できます。

SAN 接続ポリシーの作成

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] > [Policies] > [root] > [Sub-Organizations] > [hx-cluster] の順に展開します。

ステップ 3 [SAN Connectivity Policies] を右クリックし、[Create SAN Connectivity Policy] を選択します。

ステップ 4 [Create SAN Connectivity Policy] ダイアログボックスで、[Name] として **Hyperflex** と入力し、オプションで [Description] に説明を入力します。

ステップ 5 [WWNN Assignment] ドロップダウンから、[Hyperflex] プールを選択します。

各プール名の後には、プール内で利用可能な WWN の数および WWN の合計数を示す、括弧に囲まれた 2 つの数字が表示されます。

ステップ 6 [Add] をクリックします。

ステップ 7 [Create vHBAs] ダイアログボックスで、名前として **vhba-a** と入力します。

ステップ 8 [Use vHBA template] をクリックします。

ステップ 9 [vHBA template] ドロップダウン リストから [**vhba-a**] を選択します。

ステップ 10 [Adapter Policy] ドロップダウン リストから [**VMware**] を選択します。

ステップ 11 [OK] をクリックします。

ステップ 12 ステップ 7 から 12 を繰り返して、vHBA **vhba-b** を作成し、**vhba-b** テンプレートを割り当てます。

次のタスク

HX ノード サービス プロファイル テンプレートに SAN 接続ポリシーを統合します。

HX ノード サービス プロファイル テンプレートへの SAN 接続ポリシーの統合

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Server] をクリックします。

ステップ 2 [Servers] > [Service Profile Template] > [root] > [Sub-Organizations] > [hx-cluster] の順に展開します。

ステップ 3 [Service Template hx-nodes] を選択し、[vHBA] を選択します。

ステップ 4 作業ペインの [Storage] タブで、[SAN Connectivity Policy] セクションにあるドロップダウン リストから [HyperFlex] を選択します。

ステップ 5 **[Save（保存）]** をクリックします。

これにより、この SPT に関連付けられているサービス プロファイルがユーザの確認をとってから HX ノードをリブートします。

vNIC または vHBA を導入済み HyperFlex クラスタへ追加

HyperFlex クラスタをインストールした後で FlexPod などの追加のストレージを追加するには、次の手順に従ってください。これらのハードウェアを変更した後は、一度に複数のノードを再起動しないでください。後続のノードで再起動または手順を実行する前に、各ノードのヘルス状態を確認します。

仮想ネットワーク インターフェイス コントローラ（vNIC）または仮想ホスト バス アダプタ（vHBA）を導入済み HyperFlex クラスタに追加するには、次の手順を完了します。

ステップ 1 HyperFlex のサービス プロファイル テンプレートに vHBA を追加します。詳細については、vHBA テンプレートの作成 （7 ページ）を参照してください。

重要 vHBA をサービス プロファイル テンプレートに追加した後、HX サーバに再起動が必要と表示されます。この時点では HX サーバを再起動しないでください。

ステップ 2 vSphere Web Clientを使用して HX ESXi サーバの 1 つをメンテナンス モードにします。

a) vSphere Web クライアント ナビゲータから、**[Hosts and Clusters]** > **[Datacenter]** > **[HX Cluster]** > ***[node]*** の順に選択します。

b) ノードを右クリックし、**[Cisco HX Maintenance Mode]** > **[Enter HX Maintenance Mode]** の順に選択します。

ステップ 3 システム保守モードに移行後に、Cisco UCS Manager の関連付けられているノードを再起動して新しいハードウェアの追加を完了します。

ステップ 4 ESXi サーバのパススルーを設定します。

a) vSphere Web Client ナビゲータから、**[vCenter Inventory]** > **[Resources]** > **[Hosts]** > **[ESX host]** > **[Manage]** > **[Settings]** > **[Hardware]** > **[PCI Devices]** > **[Edit]** の順に選択します。

b) ハードウェアに移動し、[advanced settings] を選択します。

c) [Configure Passthrough] を選択します。
d) パススルーにする [LSI card] を選択して [OK] をクリックします。

ステップ 5 ESXi ホストをリブートします。

ステップ 6 ESXi ホストが再起動したら、[Advanced Setting Screen] 画面でパススルーデバイスが利用可能になっていることを確認します。

ステップ 7 HX メンテナンス モードを終了します。

a) vSphere Web クライアント ナビゲータから、**[Hosts and Clusters]** > **[Datacenter]** > **[HX Cluster]** > ***[node]*** の順に選択します。
b) ノードを右クリックし、**[Cisco HX Maintenance Mode]** > **[Exit HX Maintenance Mode]** の順に選択します。

ステップ 8 HX コントローラを再設定します。

a) システムを右クリックして、[Edit Settings] を選択します。[OK] をクリックします。
b) [Hardware] タブで、PCI デバイスが利用不可と表示されます。デバイスを強調表示して [Remove] をクリックします。
c) [Add] をクリックします。[PCI device] を選択して、[Next] をクリックします。
d) PCI デバイスがドロップダウン リストで強調表示されている必要があります。[Next] をクリックします。
e) [Finish] を選択します。[OK] をクリックします。

ステップ 9 HX コントローラを右クリックして電源オンにします。

ステップ 10 HyperFlex クラスタのヘルス ステータスをチェックし、次のノードに進む前にクラスタが正常であることを確認します。

```
# stcli cluster info|grep -i health
```

```
Sample output:
healthstate : healthy
state: healthy
storage cluster is healthy
```

ステップ 11 必要に応じて、クラスタ内の各ノードにプロセスを繰り返します。

外部 iSCSI ストレージへの Cisco HX サーバの接続

iSCSI SAN の概念

iSCSI SAN はコンピュータ システム間またはホスト サーバ間でイーサネット接続を使用する、ハイパフォーマンスのストレージ サブシステムです。SAN のコンポーネントには、ストレージ トラフィックを転送するホスト サーバ、スイッチ、ルータ内の iSCSI ホスト バス アダプタ（HBA）またはネットワーク インターフェイス カード（NIC）、ケーブル、ストレージ プロセッサ、およびストレージ ディスク システムがあります。

iSCSI SAN は、クライアント/サーバ アーキテクチャを使用します。iSCSI イニシエータと呼ばれるクライアントは、ホスト上で稼働します。iSCSI イニシエータは iSCSI コマンドをサーバに対して発行します。これらのコマンドは、iSCSI プロトコルを使用してカプセル化した状態で送信されます。サーバは、iSCSI ターゲットと呼ばれます。iSCSI ターゲットはネットワーク上の物理ストレージ システムを表します。また、たとえば仮想マシンで稼働する iSCSI ターゲット エミュレータなどの iSCSI ターゲットを仮想 iSCSI SAN で提供することもできます。iSCSI ターゲットは必要な iSCSI データを送信して、イニシエータからのコマンドに応答します。

検出、認証、およびアクセス制御

ストレージを検出し、そのストレージへのアクセスを制限するには、いくつかのメカニズムを使用できます。ストレージ アクセス制御ポリシーをサポートするように、ホストとインターネット SCSI（iSCSI）を設定する必要があります。

仮想マシンが iSCSI SAN 上のデータにアクセスする方法

ESXi が仮想マシンのディスク ファイルを保管する VMFS データストアは、SAN ストレージ デバイス上にあります。仮想マシンのゲスト オペレーティング システムが自身の仮想ディスクに対して iSCSI コマンドを発行すると、SCSI 仮想化層により、コマンドが VMFS ファイル操作に変換されます。iSCSIイニシエータがネットワーク接続に使用するポートに応じて、イーサネット スイッチとルータは、ホストがアクセス対象とするストレージ デバイスにリクエストを伝送します。

iSCSI SAN での ESXi の使用

SAN と併せて ESXi を使用することで、ストレージが統合されて信頼性が向上するとともに、ディザスタ リカバリにも役立ちます。iSCSI SAN ストレージ システムを使用するように ESXi ホストをセットアップする場合は、いくつかの特殊な考慮事項があることに注意してください。

iSCSI ストレージに関するベスト プラクティス

iSCSI SAN と併せて ESXi を使用する際は、VMware が提示している問題回避のためのベスト プラクティスに従ってください。

ストレージ システムがストレージ API（アレイ統合ハードウェア アクセラレーション機能）をサポートしている場合は、ストレージ予約を確認します。また、ストレージ システム側でハードウェア アクセラレーション サポートを有効にする方法について、ベンダーのドキュメントで確認する必要があります。

iSCSI SAN の問題の回避

SAN と併せて ESXi を使用する際は、SAN 設定で問題が発生しないよう、以下の特定のガイドラインに従ってください。

- 各 LUN に配置する VMFS データストアは 1 つだけにしてください。LUN 上に複数の VMFS データストアを配置することは推奨されません。
- システムが設定するパスポリシーは、それを変更することによってどのような影響があるかを理解していない限り、変更しないでください。
- 設定、アクセス制御、ストレージ、スイッチ、サーバ、iSCSI HBA 設定、ソフトウェアおよびファームウェアのバージョン、ストレージの配線計画を含め、すべての情報を文書化してください。
- 障害時に備えた計画を立てます。トポロジマップの複数のコピーを作成します。各要素について、その要素で障害が発生した場合に SAN に与える影響を検討してください。
- 極めて重要な障害点を見逃さないよう、設計に記載されている各種のリンク、スイッチ、HBA、およびその他の要素のそれぞれをチェックするごとに線を引いて消します。
- スロットとバス速度に基づき、iSCSI HBA が ESXi ホストの正しいスロットに設置されていることを確認します。サーバで使用可能なバスの間で PCI バスの負荷を分散します。
- ESXi パフォーマンス グラフ、イーサネット スイッチ統計情報、およびストレージ パフォーマンス統計情報を含め、あらゆる可視の情報で、ストレージ ネットワーク内のさまざまなモニタ ポイントを十分に理解します。
- ホストが使用する VMFS データストアが配置されている LUN の ID を変更する際は注意してください。ID が変更されると、VMFS データストアで実行中の仮想マシンで障害が発生します。VMFS データストアで実行中の仮想マシンがないとしても、LUN の ID を変更した後は、ホスト上で再スキャンを行って ID をリセットする必要があります。再スキャンを使用する方法の詳細については、「Storage Refresh and Rescan Operations」を参照してください。
- iSCSI アダプタのデフォルト名を変更する必要がある場合は、使用する名前が世界レベルで一意であり、適切な形式になっていることを確認します。ストレージアクセスに問題が発生しないよう、それぞれ異なるホスト上にあるアダプタであっても、決して複数のアダプタに同じ iSCSI 名前を割り当てないでください。
- iSCSI トラフィックとアップリンクがそれぞれに専用の vSwitch で隔離されるようにしてください。

Cisco HX ドメインへの iSCSI の接続

HX FI ドメインに iSCSI ストレージを追加するための VLAN の作成

ステップ 1 Web ブラウザを開き、Cisco UCS Manager の IP アドレスを入力します。ログイン クレデンシャルを入力します。

ステップ 2 **[LAN] タブ** > **[LAN]** > **[LAN Cloud]** > **[VLANS]** に移動します。

ステップ 3 次の表に示すように、右クリックして [Create VLANs] を選択します。

VLAN 名	説明	マルチキャスト ポリシー名	VLAN ID（デフォルト）
hx-extstorage-iscsi	外部ストレージの接続を追加するために使用されます	HyperFlex	4201

（注）

- 設定オプションは [Common/Global] です。これは、両方のファブリックに適用され、いずれの状況でも同じ設定パラメータが使用されます。

  共有タイプは、[None] に設定されます。

-

ステップ 4 [OK] をクリックします。

次のタスク

外部ストレージの MAC プールを作成します。

外部ストレージの MAC アドレス プールの作成

すでに存在する MAC アドレスの重複を避けるために、デフォルトの MAC アドレスのブロックを変更します。各ブロックには、デフォルトで **100 個の MAC アドレス**が含まれており、UCS システムごとに最大 100 の HX サーバを展開できます。トラブルシューティングを容易にするために、vNIC ごとに 1 つの MAC プールを使用することを推奨します。

（注） 8 桁目は A または B に設定します。「A」は、ファブリック インターコネクト A にピン接続された vNIC で設定されます。「B」は、ファブリック インターコネクト B にピン接続された vNIC で設定されます。

ステップ 1 Web ブラウザを開き、Cisco UCS Manager の IP アドレスを入力します。ログイン クレデンシャルを入力します。

ステップ 2 Cisco UCS Manager で、**[LAN tab]** > **[Pools]** > **[root]** > **[Sub-org]** > **[hx-cluster]** > **[MAC Pools]** に移動します。

ステップ 3 [MAC Pools] を右クリックし、[Create MAC Pool] を選択します。

ステップ 4 [Create MAC Pool] ウィザードの [Define Name and Description] ページで、次に示すように必須フィールドに入力します。

MAC プール名	説明	割り当て順序	MAC アドレス ブロック
hx-extstorage-a	HyperFlex システムに外部ストレージを追加するための MAC プール	Sequential	00:25:B5:XX:1:01-63

（注） MACアドレスの最後のブロックを確認し、次の順序のブロックを使用して、両方のファブリックに新しい MAC プールを作成してください。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [Create MAC Pool] ウィザードの [Add MAC Addresses] ページで、[Add] をクリックします。

ステップ 7 [Create a Block of MAC Addresses] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[First MAC Address] フィールド	ブロック内の最初の MAC アドレス。
[Size] フィールド	ブロック内の MAC アドレス数。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

ステップ 9 [Finish] をクリックします。

次のタスク

手順を繰り返して、ファブリック インターコネクト b に MAC プール **hx-extstorage-b** を作成します。

iSCSI ストレージの vNIC テンプレートの作成

このテンプレートは、サーバ上の vNIC と LAN の接続方法を定義するポリシーです。これは、vNIC LAN 接続テンプレートとも呼ばれます。このポリシーを有効にするには、このポリシーをサービス プロファイルに含める必要があります。

始める前に

このポリシーは、次のリソースの 1 つ以上がシステムにすでに存在していることを前提にしています。

- ネームド VLAN
- MAC プール
- Jumbo MTU
- QoS ポリシー

ステップ 1 Cisco UCS Manager で、[LAN] タブ > [Policies] > [root] > [Sub-Organization] > [Hyperflex] > [vNIC Templates] に移動します。

ステップ 2 [vNIC Templates] ノードを右クリックし、[Create vNIC Template] を選択します。

ステップ 3 [Create vNIC Template] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	**extstorage_iscsi-a** を入力します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。-（ハイフン）、_（アンダースコア）、:（コロン）、および .（ピリオド）は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
[Description] フィールド	テンプレートのユーザ定義による説明。 256 文字以下で入力します。
[Fabric ID] フィールド	[A] を選択します。
[Redundancy] ドロップダウン リスト	Primary
Target	アダプタ
[Template Type] フィールド	[Updating Template] を選択します。 このテンプレートが変更されると、このテンプレートから作成された vNIC が更新されます。
[VLAN] フィールド	hx-extstorage-iscsi（上記で作成したもの）
[CDN Source]	vNIC 名
[MTU] ドロップダウン リスト	**9000**
[MAC Pool]	**hx-extstorage-a**（以前に作成済み）
[QoS Policy] ドロップダウン リスト	**Bronze**
Connection	**Dynamic**

ステップ 4 [OK] をクリックします。

次のタスク

ファブリック インターコネクト B の vNIC テンプレートを作成します。

ファブリック インターコネクト B の vHBA テンプレートの作成

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] > [Policies] > [root] > [Sub-Organizations] > [hx-cluster] の順に展開します。

ステップ 3 [vHBA Templates] ノードを右クリックし、[Create vHBA Template] を選択します。

ステップ 4 [Create vHBA Template] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	[vhba-b] と入力します。 仮想ホスト バス アダプタ（vHBA）テンプレートの名前。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。-（ハイフン）、_（アンダースコア）、:（コロン）、および .（ピリオド）は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
[Description] フィールド	テンプレートのユーザ定義による説明。 256 文字以下で入力します。
[Fabric ID] フィールド	[B] を選択します。
[Select VSAN] ドロップダウン リスト	ファブリック B に選択した VSAN を選択して、この vHBA に関連付けます。
[Template Type] フィールド	[Updating Template] を選択します。 このテンプレートが変更されると、このテンプレートから作成された vHBA が更新されます。
[Max Data Field Size] フィールド	デフォルト：2048 vHBA がサポートするファイバチャネル フレームのペイロード バイトの最大サイズ。
[WWPN Pool] ドロップダウン リスト	[hx-b] を割り当てます。
[QoS Policy] ドロップダウン リスト	**<not set>**
[Pin Group] ドロップダウン リスト	**<not set>**
[Stats Threshold Policy] ドロップダウン リスト	**<not set>**

ステップ 5 [OK] をクリックします。

LAN 接続ポリシー

接続ポリシーは、ネットワーク内のサーバと LAN の間の接続およびネットワーク通信リソースを決定します。このポリシーは、プールを使用して MAC アドレスをサーバに割り当て、サーバがネットワークとの通信に使用する vNIC を識別します。

（注） これらの接続ポリシーは、サービス プロファイルおよびサービス プロファイル テンプレートに含まれるため、静的IDを接続ポリシーで使用することはお勧めしません。接続ポリシーは、複数のサーバを設定するためにも使用できます。

LAN 接続ポリシーの作成

ステップ 1 [Navigation] ペインの [LAN] タブをクリックします。

ステップ 2 [LAN] タブで、[LAN] > [Sub-Org] > [hx-cluster] > [LAN Connectivity Policies] > [HyperFlex] を展開します。

ステップ 3 [Add iSCSI vNICs] をクリックします。

ステップ 4 [Create vNIC] ダイアログボックスで、名前（iscsi-A）を入力します。[Use vNIC Template] および [Redundancy Pair] をオンにします。

ステップ 5 [Peer Name] に iscsi-B と入力します。

ステップ 6 [vNIC Template] の名前として、ドロップダウン リストから [iscsi-A] を選択します。[OK] をクリックします。

ステップ 7 ステップ 3 から 6 を繰り返して、vNIC iscsi-B を作成し、vNIC-b テンプレートを割り当てます。

ステップ 8 [Save Changes] をクリックします。[Save Changes] ボックスが表示されます。[Yes] をクリックして変更を受け入れます。
HX ノード サービス プロファイル テンプレートに LAN 接続ポリシーを統合します。

HX ノード サービス プロファイル テンプレートへの LAN 接続ポリシーの統合

ステップ 1 [Server] タブに移動します。[root] > [Sub-Org] > [hx-cluster] > [Service Template hx-nodes] を展開します。

ステップ 2 作業ペインの [Network] タブで、[LAN Connectivity Policy] セクションにあるドロップダウン リストから [HyperFlex] を選択します。

ステップ 3 [Modify vNIC/HBA Placement] をクリックします。iscsi vNIC が適切な順序かどうかを確認します。それらがその順序で最後になっていることを確認します。必要に応じて配置し直します。

（注） FC と iSCSI の両方のストレージを追加する場合は、vHBA の順序が vNIC の順序に先行します。

ステップ 4 **[Save（保存）]** をクリックします。

これにより、この SPT に関連付けられているサービス プロファイルがユーザの確認をとってから HX ノードをリブートします。

ネットワーク アダプタの追加

ステップ 1 VMware vCenter に進みます。

ステップ 2 [HX node] を選択します。

ステップ 3 [Configuration] > [Hardware] に移動します。

ステップ 4 [Network Adapters] をクリックします。

ステップ 5 作成した iSCSI vmnic が [Network Adapters] に表示されていることを確認します。[Networking] をクリックします。

ステップ 6 [Create vSphere Standard Switch] を選択し、新しい vSwitch を作成して、前に追加した 2 つの vNIC を選択します。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 ポート グループを作成し、接続タイプを [VMkernel] に設定します。[Port Group Properties] セクションで、[Network Label]、[VLAN ID]、および [Network Type] に値を入力します。

ステップ 9 [Next] をクリックし、[IP Address] に iSCSI イニシエータの IP アドレスを入力します。

ステップ 10 [Finish] をクリックします。vswitch が作成され、1 つの vmkernel ポート グループが割り当てられます。

注目 マルチパスを設定する場合は、作成した vswitch の [Properties] をクリックし、[Add] をクリックして別の vmkernel ポリシーを追加します。上記のステップ 8 および 9 を実行します。[Finish] をクリックします。

2 つの vmkernel ポートを使用してマルチパスを設定した場合は、NIC チーミング ポリシーを設定します。

最初の vmkernel ポートをクリックして [Edit] をクリックし、[NIC teaming] チェックボックスをオンにしてスイッチ フェールオーバー順序をオーバーライドします。一方の vnic アダプタをアクティブにしてもう一方を未使用の状態にします。2 番目の vmkernel ポートについて、以上の逆の設定を行います。

ストレージ アダプタの追加

ステップ 1 VMware vCenter に進みます。

ステップ 2 [HX node] を選択します。

ステップ 3 [Configuration] > [Hardware] に移動します。

ステップ 4 [Storage Adapters] をクリックします。

ステップ 5 [USB Storage Controller] を選択します。

ステップ 6 [Add] をクリックします。

ステップ 7 [Add iSCSI Software Adapter] をクリックします。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

ステップ 9 新しい [Software iSCSI adapter] が [Storage Adapter] リストに追加されます。追加された [Software iSCSI Adapter] をリストから選択します。

ステップ 10 [Properties] > [Network Configuration] タブの順にクリックします。

ステップ 11 [Add] をクリックします。

ステップ 12 *vNIC 10* と *vNIC 11* が表示されているはずです。この両方を選択して、[OK] をクリックします。

ステップ 13 [Dynamic Discovery] タブに移動します。

ブランクで表示されます。

ステップ 14 [Add the iSCSI target IP against the iSCSI adapter] をクリックします。デフォルト ポートとして使用します。

ステップ 15 [OK] をクリックします。

ターゲットが取り込まれます。2 番目の IP マルチパスに対して、上記の手順を繰り返します。

（注） 再スキャンを実行するかどうか尋ねられます。[Yes] をクリックします。iSCSI LUN が割り当て済みの場合は、ソフトウェアの [Configuration] でデバイスの下にその iSCSI LUN が表示されます（シック クライアント）。

ステップ 16 [Storage] に移動します。

ステップ 17 [Configuration] タブで、[Add Storage] をクリックします。

ステップ 18 [Storage Type] として [Disk] または [LUN] を選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 19 LUN が表示されます。それを選択してから、[Next] をクリックします。

ステップ 20 [Datastore Name] にデータストア名を入力し、[Finish] をクリックします。

外部 NFS ストレージへの Cisco HX サーバの接続

ネットワーク ファイル システム

ESXi に統合された NFS クライアントは、ネットワーク ファイル システム（NFS）プロトコルを使用して、NAS サーバ上にある指定の NFS ボリュームに TCP/IP でアクセスします。ESXi ホストにはボリュームをマウントすることができ、そのボリュームでストレージニーズに対応します。

ESXi は、ほとんどの NFS ボリュームで以下のストレージ機能をサポートします。

- vMotion および Storage vMotion
- ハイ アベイラビリティ（HA）
- 分散リソース スケジューラ（DRS）

NFS に関する注意事項と要件

NFS ストレージを使用する際は、設定、ネットワーク、NFS データストアに関する以下の注意事項に従ってください。

NFS サーバ設定時の注意事項

- 使用する NFS サーバが VMware HCL に記載されていることを確認します。サーバ ファームウェアに適切なバージョンを使用する必要があります。
- NFS ストレージを設定する際は、ストレージ ベンダーの推奨事項に従います。
- NFS ボリュームは NFS を使用して TCP でエクスポートされるようにする必要があります。
- ホストのそれぞれにボリュームへのルートアクセス権限が割り当てられるようにします。NAS サーバがルート アクセス権限を付与しないとしても、ホスト上に NFS データストアをマウントすることはできます。ただし、そのデータストアで仮想マシンを作成することはできません。
- NFS サーバが 1 つの共有に対して両方のプロトコル バージョンを指定していないことを確認します。
- ファイルを保管する基礎の NFS ボリュームが読み取り専用となっている場合は、NFS サーバがそのボリュームを読み取り専用としてエクスポートすることを確認してください。そうでない場合は、ESXi ホスト上でそのボリュームを読み取り専用データストアとして設定する必要があります。このようしないと、ホストがそのデータストアを読み取り/書き込みに対応すると見なし、ファイルを開けなくなります。

NFS ネットワークに関する注意事項

- ネットワーク接続を可能にするには、ホストに標準ネットワーク アダプタが必要です。
- ESXi はレイヤ 2 およびレイヤ 3 のネットワーク スイッチをサポートします。レイヤ 3 スイッチを使用する場合は、ESXi ホストと NFS ストレージ アレイをそれぞれ別のサブネットに配置して、ネットワーク スイッチでルーティング情報を処理する必要があります。
- NFS トラフィックとアップリンクがそれぞれに専用の vSwitch で隔離されるようにしてください。
- NFS ストレージには VMkernel ポート グループが必要です。新しい仮想スイッチ（vSwitch）上に、IP ストレージの VMkernel ポート グループを追加してください。vSwitch スイッチとしては、vSphere 標準スイッチ（VSS）または vSphere 分散スイッチ（VDS）を使用できます。
- 複数のポートで NFS トラフィックに対応する場合は、それに応じて適切に仮想スイッチと物理スイッチが設定されていることを確認します。詳細については、vSphere ネットワークに関するドキュメントを参照してください。

（注） NFS ストレージの設定の詳細については、ストレージ ベンダーのドキュメントを参照してください。

NFS ストレージの vSwitch、アダプタ、およびポート グループの作成

ステップ 1 vCenter Web クライアントで、[Inventory] > [Hosts and Clusters] > [DC] > [host] に移動します。[Configuration] タブで、[Networking] > [Add Networking] の順にクリックします。ウィザード ボックスで、[VMkernel] を選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 2 [Create vSphere Standard switch] を選択し、使用可能な vmnic を選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 3 ポート グループの名前を入力します。例：NFS

環境にネイティブ VLAN がある場合、VLAN ID をデフォルトのままにします。

ステップ 4 [IP Setting] に IP 設定の情報を入力します。[Next] をクリックします。[Finish] をクリックします。

NFS ストレージ環境の設定

ステップ 1 NFS サーバで、NFS ボリュームを設定し、そのボリュームをマウント先の ESXi ホストにエクスポートします。NFS サーバの IP アドレスまたは DNS 名および絶対パス、あるいは NFS 共有フォルダ名に注意してください。

（注） このデータストアをマウントする各ホストが、Active Directory ドメインの一部になっていること、およびホストごとに NFS 認証クレデンシャルが設定されていることを確認します。

ステップ 2 vCenter シック クライアントで、[Storage] に移動します。[Configuration] タブで、[Add Storage] をクリックします。ウィザード ボックスで、[Network File System (NFS)] を選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 3 [Local NFS] ウィザードが表示されます。ターゲット サーバの IP アドレスと、そのアドレスに対応するパスを入力します。データストアに名前を付けます。[Next] と [Finish] をクリックします。

（注） 注：サービス プロファイル テンプレート、サービス プロファイル、およびポリシーに関して Cisco UCS Manager で行う必要がある変更はありません。詳細については、**vSphere ネットワークに関するドキュメント**を参照してください。

ファイバ チャネルのゾーン分割

ファイバ チャネル（FC）ゾーン分割によって、FC ファブリックを 1 つ以上のゾーンに区切ることができます。各ゾーンでは、VSAN で相互通信できる FC イニシエータと FC ターゲットのセットが定義されます。ゾーン分割により、ホストとストレージ デバイスまたはユーザ グループ間のアクセス制御を設定することができます。

ゾーンに関する情報

ゾーンは複数のゾーン メンバから構成されており、次のような特性を備えています。

- ゾーンのメンバ同士はアクセスできますが、異なるゾーンのメンバ同士はアクセスできません。
- ゾーンのサイズを変更できます。
- デバイスは複数のゾーンに所属できます。

1 つの物理ファブリックに最大 8,000 ゾーンを収容できます。

Cisco UCS Manager でのファイバ チャネルのゾーン分割

Cisco UCS Manager は、スイッチベースのファイバチャネル（FC）ゾーニングと Cisco UCS Manager ベースの FC ゾーニングをサポートします。同じ Cisco UCS ドメイン内ではゾーン分割タイプを組み合わせて設定できません。次のゾーン分割タイプのいずれかを使って Cisco UCS ドメインを設定できます。

- Cisco UCS Manager ベースのファイバ チャネル ゾーン分割：この設定は、直接接続ストレージとローカル ゾーン分割の組み合わせです。ファイバ チャネルまたは FCoE のストレージはファブリック インターコネクトに直接接続され、ゾーン分割は、Cisco UCS ローカル ゾーン分割を使用して Cisco UCS Manager で実行されます。既存のファイバ チャネルまたは FCoE のアップリンク接続を無効にする必要があります。現時点では、Cisco UCS は、Cisco UCS ローカル ゾーン分割機能の利用において、アクティブなファイバ チャネル/FCoE アップリンク接続をサポートしていません。
- スイッチベースのファイバチャネルゾーン分割：この設定は、直接接続ストレージとアップリンク ゾーン分割の組み合わせです。ファイバ チャネルまたは FCoE のストレージはファブリック インターコネクトに直接接続され、ゾーン分割は、MDS または Nexus 5000 スイッチを介して Cisco UCS ドメインの外部から実行されます。この設定では、Cisco UCS ドメインでのローカル ゾーン分割はサポートされません。スイッチベースのゾーン分割の場合、Cisco UCS ドメインは上流に位置するスイッチからゾーン分割の設定を継承します。

（注） ゾーン分割は VSAN 単位で設定されます。ファブリック レベルでゾーン分割を有効にすることはできません。

推奨事項

- Cisco UCS Manager にファイバ チャネル ゾーン分割を処理させる場合は、ファブリック インターコネクトがファイバ チャネル スイッチ モードである必要があります。エンドホスト モードではファイバ チャネル ゾーン分割を設定できません。
- Cisco UCS ドメインが 2 つのファブリック インターコネクトによるハイ アベイラビリティ構成である場合は、両方のファブリック インターコネクトに同一の VSAN セットを設定することを推奨します。

ファイバ チャネル ゾーン分割の設定

手順の概要

1. まだ完了してない場合は、Cisco UCS ドメイン内のファブリック インターコネクトの接続を、外部ファイバ チャネル スイッチ（MDS など）から切り離します。
2. Cisco UCS ドメインにまだ外部ファイバ チャネル スイッチによって管理されたゾーンが含まれる場合は、これらのゾーンを削除するために、影響を受けたすべての VSAN で `clear-unmanaged-fc-zone-all` コマンドを実行します。
3. ファイバ チャネル スイッチ モードの両方のファブリック インターコネクトでファイバ チャネル スイッチング モードを設定します。
4. ファイバチャネルゾーンのトラフィック転送に必要なファイバチャネルと FCoE ストレージ ポートを設定します。

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	まだ完了してない場合は、Cisco UCS ドメイン内のファブリック インターコネクトの接続を、外部ファイバ チャネル スイッチ（MDS など）から切り離します。	
ステップ 2	Cisco UCS ドメインにまだ外部ファイバ チャネル スイッチによって管理されたゾーンが含まれる場合は、これらのゾーンを削除するために、影響を受けたすべての VSAN で `clear-unmanaged-fc-zone-all` コマンドを実行します。	この機能は現在、Cisco UCS Manager GUI では使用できません。この手順は、Cisco UCS Manager CLI で実行する必要があります。
ステップ 3	ファイバ チャネル スイッチ モードの両方のファブリック インターコネクトでファイバチャネル スイッチング モードを設定します。	エンドホスト モードではファイバ チャネル ゾーン分割を設定できません。参照先 http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/ucs-manager/GUI-User-Guides/Storage-Mgmt/3-1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1_chapter_01110.html#task_B6E0C2A15FE84D498503ADC19CDB160B

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	ファイバ チャネル ゾーンのトラフィック転送に必要なファイバチャネルと FCoE ストレージ ポートを設定します。	「Configuring an Ethernet Port as an FCoE Storage Port」および「Configuring a Fiber Channel Storage Port」を参照してください。次のリンクを参照してください。 http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/ucs-manager/GUI-User-Guides/Storage-Mgmt/3-1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1_chapter_01100.html#task_A33D13CA58924EB1AD35EBA473B92625

ダイレクト アタッチド ストレージ

標準的なダイレクトアタッチドストレージ（DAS）システムは、ホストバスアダプタ（HBA）を介してコンピュータに直接接続されているデータ ストレージデバイスで構成されています。これら2つのポイント間にはネットワーク デバイス（スイッチやルータなど）がありません。DAS 接続に使用される主要なプロトコルは、ATA、SATA、eSATA、SCSI、SAS、USB、USB 3.0、IEEE 1394、およびファイバ チャネルです。

Cisco UCS Manager では、SAN スイッチでゾーン分割設定をプッシュしなくても DAS を使用できます。ここで説明されている DAS の構成では、ストレージ アレイ ポートとファブリック インターコネクトの間に物理ケーブルが接続済みであることが想定されています。

ファイバ チャネル スイッチング モード

ファイバ チャネル スイッチング モードは、サーバとストレージ デバイス間のスイッチング装置としてファブリック インターコネクトがどのように動作するかを決定します。ファブリック インターコネクトは、次のファイバ チャネル スイッチング モードのいずれかで動作します。

エンドホスト モード

エンドホスト モードを使用すると、ファブリック インターコネクトは、仮想ホスト バス アダプタ（vHBA）を介して接続されているすべてのサーバ（ホスト）に代わって、接続されているファイバ チャネル ネットワークに対するエンド ホストとして動作することができます。この動作は、vHBA をファイバ チャネル ポート アダプタにピン接続することにより実現されます（動的なピン接続または固定のピン接続のいずれか）。これにより、ファイバチャネル ポートはファブリックの残りの部分に対してサーバ ポート（N ポート）となります。エンドホスト モードの場合、ファブリック インターコネクトは、アップリンク ポートがトラフィックを相互に転送するのを拒否することでループを回避します。

エンドホスト モードは N ポート仮想化（NPV）モードと同義です。このモードは、デフォルトのファイバ チャネル スイッチング モードです。

（注） エンドホスト モードを有効にした場合、vHBA がアップリンク ファイバ チャネル ポートに固定ピン接続されていて、このアップリンク ポートがダウンすると、システムはその vHBA をピン接続し直すことはできず、その vHBA はダウンしたままになります。

Switch Mode

スイッチ モードは従来のファイバ チャネル スイッチング モードです。スイッチ モードを使用して、ファブリック インターコネクトをストレージ デバイスに直接接続することができます。ファイバ チャネル スイッチ モードの有効化は、SAN が存在しない（たとえば、ストレージに直接接続された 1 つの Cisco UCS ドメイン）ポッド モデル、または SAN が存在する（アップストリーム MDS を使用）ポッド モデルで役に立ちます。スイッチ モードはデフォルトのファイバ チャネル スイッチング モードではありません。

（注） ファイバ チャネル スイッチ モードでは、SAN ピン グループは不適切です。既存の SAN ピン グループはすべて無視されます。

ファイバ チャネル スイッチング モードの設定

重要 ファイバ チャネル スイッチング モードを変更すると、Cisco UCS Manager により、ユーザはログアウトされ、ファブリック インターコネクトが再起動されます。クラスタ設定では、Cisco UCS Manager により両方のファブリック インターコネクトが同時に再起動されます。2 つ目のファブリック インターコネクトがファイバ チャネル スイッチング モードに変更され、システムが使用できるようになるまでには数分間かかります。

ファイバ チャネル スイッチング モードを変更すると、両方の Cisco UCS ファブリック インターコネクトが同時にリロードします。ファブリック インターコネクトがリロードすると、約 10 ～ 15 分のダウンタイムがシステム全体で発生します。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインの [General] タブをクリックします。

ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、次のリンクのいずれかをクリックします。

- **[Set FC Switching Mode]**
- **[Set FC End-Host Mode]**

現在のモードのリンクはグレー表示されます。

ステップ 5 ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。

Cisco UCS Manager により、ファブリック インターコネクトの再起動、ログアウト、および Cisco UCS Manager GUI の切断が実行されます。